



林 声

2021

9 月号



県内各地の森林をご紹介します「様々なスタイルの森・おかやま」。今回は、高梁市宇治町のアカマツ林です。松枯れが県南から拡大してきた平成の初期に、「宇治の山が真っ赤になってしまう」と危惧された地元住民によって組織された『宇治町赤松を守る会』。平成27年に解散されるまでの会による防除活動の結果、現在でも青々としたアカマツ林が見られます。
(詳細はP 2に記載)

目 次

様々なスタイルの森・おかやま ～高梁市宇治町のアカマツ林 ……………	2	林業技能講習等情報 ……………	10
がんばる林業事業体（有限会社西山林業） ……	3	林産物市況 ……………	11
普及指導区の情報提供（岡山普及指導区） ……	4	森林・林業施設の紹介 （GREENable HIRUZEN） ……………	14
「企業との協働の森づくり事業」 ……………	5		
林業経営体向け基礎知識研修を受講しませんか ……………	6		
研究だより （CLTの新たな分野での利用方法の検討） ……	7		
令和2年度森林・林業白書が公表されました ……	8		
林研グループの紹介（岡山林業未来会） ……	9		

【ほっけ～木になる情報】

Q.「県営林」とは何ですか？
（答は13ページ）



© 岡山県マスコット「ももっち」

様々なスタイルの森・
おかやま
〜高梁市宇治町のアカマツ林〜
【高梁普及指導区】



高梁市宇治町陣山付近のアカマツ林

一 高梁市宇治町
備中高梁駅から北西方向に車で20分程度走ると、山あいには田畑や集落、城跡や社寺等が点在し、豊かな自然と歴史を感じさせてくれる宇治町があります。今回は、この地域で広範囲にわたって見られるアカマツ林を紹介いたします。

二 松枯れについて

岡山県では昭和49年が松枯れ被害のピークで、薬剤の空中散布や伐倒駆除等の対策を行ってきましたが、被害量の減少や薬剤の環境への影響などの理由から、徐々に被害対策は縮小してきました。空中散布を止めると、その後2〜3年で松枯れが激化し、真つ赤になつて枯れた後、白化した枯れ木が林立することになる場合が多いですが、なぜか宇治地域のアカマツ林は空中散布中止後も多少の枯れはあるものの、その緑を大部分留めています。その理由がわかればと、地元でアカマツを守るために尽力されてきた方にお会いしました。

三 宇治町赤松を守る会

「平成3年の台風19号まではこの辺りでは松枯れはなかった。あの台風は風台風だったので、松の根を揺らして松を弱らせ、それが松枯れの発端になったのではないか。」との見解を話してくださいました『宇治町赤松を守る会』の元会長、三村裕さん。県南の松枯れを見て危機感をいだき、平成4年2月に「ふるさと宇治のアカマツを松くい虫から守り、住みよい地域づくりを進める」ことを目的とし

た『宇治町赤松を守る会』を設立しました。会員は当初105名いたそうです。

四 守る会の活動内容

被害木の伐倒駆除、空中散布事業への協力、移動式炭化炉による炭焼きという3本柱があり、真つ先に取り組んだのが伐倒駆除。1〜3月の日曜日に1シーズンで5〜6回実施。被害量が多いときには3班に分かれて作業しており、「とにかく事故を起こさないように」という気持ちで取り組んでいったとのこと。



宇治町赤松を守る会の元会長 三村裕さん

当会の熱心な働きかけにより平成7年から始まった薬剤空中散布に関しては、広報誌での地元住民への協力依頼、ヘリポートの整備、水の調達・確保、ヘリポートの警備、交通規制等の協力を行っていました。あるとき、県職員に「他

地域では空中散布に批判的な意見を頂戴することもあるが、ここではお礼を言ってもらえる」と言われたことが非常に印象に残っているそうです。

伐倒した木材は2基導入した移動式炭化炉により炭にし、収益が年間13万円になったこともあったそうです。

五 活動の終わり

平成14年4月に宇治地区で非会員の方が伐倒作業中の事故に遭われたことをきっかけに、安全について再考した結果、伐倒駆除を止めることとなりました。空中散布事業も平成26年で終了となり、会も平成27年2月に解散しました。

六 おわりに

「マツタケの産地ではあるが、マツタケ生産のためにマツを守ったわけではない」とのこと、純粹に地域の景観としてのマツ林を大事に思つての素晴らしい活動の一端を知ることができ、大変参考になりました。気持ちが温かくなりました。こうした地域の方々の森林への想いをくみ取り、地域の森林を良くするお手伝いを微力ながらさせていただきます。

(高梁普及指導区 奥村 祐子)



【東備普及指導区】

一 はじめに

(有)西山林業は、赤磐市今井に事務所を置いています。主に広葉樹林を伐採し、その材を余すことなく大切に使用することで良質の林産物を生み出しています。伐採は主に東備地域及び周辺市町でされています。

二 西山林業の概要

昭和55年に現社長の父親である西山達郎氏が製紙用木材チップの製造を始めました。平成3年に有



愛恵氏(前社長)と雄祐氏(現社長)

限会社として法人化、愛恵氏が社長となりました。

平成15年には、現在の社長である雄祐氏が自衛官を退任して会社に入り、今から4年前に社長に就任しました。雄祐氏に帰郷した理由を伺うと、「やればよかっただけの成果が見える仕事に就きたかったから」とおっしゃっていました。

西山林業の作業は、林地の損傷を避けるために最低限の作業道を作設し、小面積の伐採・搬出を行います。持ち帰った材は、機械を使って薪(夏場はキャンプ用の針葉樹、冬場はストーブ用の広葉樹)、菌床きのこ用のおが粉及びペレット製造用木材チップに加工します。

注文に応じてシイタケ用原木の生産も行っています。また、おが



作業場でのおが粉生産

粉を他社で菌床に加工してもらい、シイタケ、ナメコ、ヒラタケ、キクラゲの生産を行い、直売所や提携店で販売するほか、学校給食用として提供しています。



生産された広葉樹のおが粉

作業を担うのは正社員6名とアルバイト4名です。正社員の年齢構成は20代、50代、60代が各2名となっており、正社員は各分野に特化するのではなく、誰もが全ての作業を行えるようにしています。

所有している林業機械は、作業道作設用のバックホウ及び運搬車等であり、高性能林業機械は所有していませんが、人工林で作業を行う場合は必要に応じてリースで対応しています。

三 会社の経営理念

西山林業では、生産した林産物の品質に徹底的にこだわっています。菌床用のおが粉は、気候の穏やかな県南地域で育った成長のよいコナラのみを使用しています。

また、薪は、規格や乾燥を徹底し、納入先であるホームセンター等から高い信頼を得ています。

さらに、きのこの生産においては、時期ごとに生産する種類を変え、安定した品質を担保することで、スーパー等販売店及び消費者の安心につながっています。

広報活動においても茄子花(なすか)というブランドのホームページを立ち上げ、自社商品の紹介・販売だけでなく、地域の森林関係イベント等の情報発信を行っています。

四 おわりに

東備地域は一部地区を除き、スギ・ヒノキの植林地が少ないため、人工林を主体とした林業の振興は難しいですが、地域に存在する森林資源を有効に活用しながら林業を行っている事業体があります。

東備普及指導区としては、西山林業が今の業務に加え、今後、市町を中心に進展していく森林整備事業の受け皿として活躍できるよう支援を行うこととしています。

(東備普及指導区 黒瀬 勝雄)

普及区の
指導情報提供

県産材利用の 推進について

【岡山普及指導区】

岡山普及指導区は、県内で最大の木材消費地域を抱えていることから、県産材の需要拡大を重点課題と位置付け、普及啓発や研修会など、様々な取組みを行っています。今回はその中でも、岡山市職員を対象にした公共建築物における木材利用促進勉強会について紹介します。

岡山普及指導区は、県内で最大の木材消費地域を抱えていることから、県産材の需要拡大を重点課題と位置付け、普及啓発や研修会など、様々な取組みを行っています。今回はその中でも、岡山市職員を対象にした公共建築物における木材利用促進勉強会について紹介します。

一 取組みの経緯

岡山市では、毎年12～16棟の公共建築物の新築や改修において、県産材を利用しています。

今後、一層の県産材利用を推進するため、昨年度から公共建築課、建築指導課、住宅課等の建築関係職員（約80名程度）を対象に、「公共建築物における木材利用促進勉強会」（以下「勉強会」という。）を開催しています。

勉強会では、県産材利用における事例の紹介や、木造住宅のメリット、デメリット等の課題を整理し、「公共建築物等木づかいサポート窓口」の活用により、建築士会の専門家から技術的な助言や指導を受けています。また、現地見学会の開催により、木造・木質化の

良さを理解することで、公共建築物への更なる県産材利用を図る取組みを行っています。

二 取組内容

令和3年7月12日に1回目の勉強会を開催し、昨年度完成した森林研究所の林業技術研修棟と（株）英田エンジニアリングの福利厚生施設を見学し、設計者等から建物の特徴や、CLTを使用した感想等についてお話を聞くことができました。要点は次のとおりです。

（一）森林研究所

- ・ 研修室（大）は木造軸組工法で、研修室（小）はCLTパネル工法を採用
- ・ 研修室（大）では、室内で立木の伐倒練習や機械操作を行うため、スパン約16m、桁行約17m、梁下高さ約7mを確保。大空間ではあるが一般流通材を活用して整備
- ・ 研修室（小）の梁は、大断面集成材にすると梁成（梁の高さ）が高くなりコストが高いため、鉄骨を採用するなど適材適所の設計
- ・ 木造建築の設計は、基本モジュールの910mmのサイズをベース



岡山県森林研究所(研修棟)

コストを抑えるため、木材や金具は一般に流通しているものを使用。仕口加工は、一般的な住宅用プレカットを採用

（二）（株）英田エンジニアリング

- ・ 社員の福利厚生施設として、食堂、スポーツジム及び座禅堂を、CLTパネル工法により整備
- ・ リラックス効果を高めるために壁や天井に県産材を利用
- ・ 食堂は大空間のため梁を張弦梁構造、スポーツジムは大断面集成材を採用
- ・ 木造化は会社のイメージアップや、採用試験受験者数の増加に繋がっている。
- ・ CLTを採用したことにより、



（株）英田エンジニアリング(食堂)

約1ヶ月の工期短縮が図られたが、結果的には木造在来や鉄骨造に比べて割高となった。

三 終わりに

参加した市の職員からは、CLTを採用した理由や木造化のメリット等についての質問があり、関心の高さを感じました。また、建物の規模・種類により、耐久性を確保した上でコストダウンが可能であること等について、一定の理解が得られたようです。今後、市が新築・改修していく公共建築物に県産材が幅広く利用されるよう、勉強会を開催していく予定としています。

（岡山普及指導区 本田 隆明）

『企業との協働の森づくり事業』について

一 はじめに

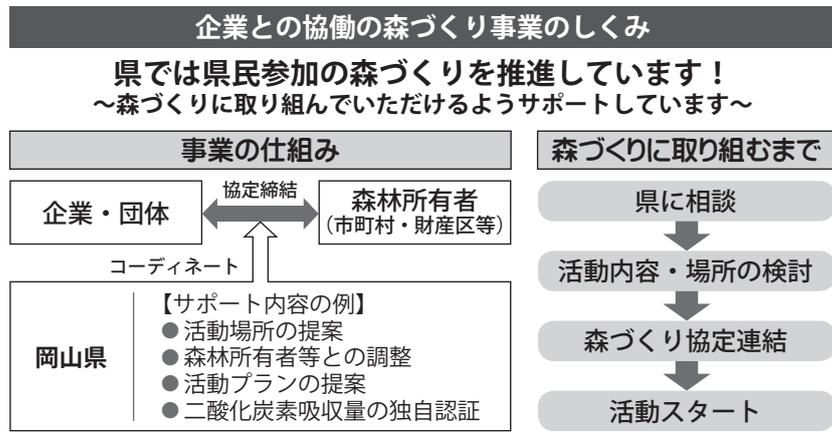
地球温暖化防止など環境問題への関心の高まりを背景に、社会貢献活動の一環として森林保全活動に取り組もうとする企業が増えていくことから、県では、おかやま森づくり県民税を活用して、「企業との協働の森づくり事業」を進めており、企業の皆様が取り組む森林整備や森林レクリエーション活動などのお手伝いをしています。

二 実施状況

市町村等の協力を得て活動対象森林（49箇所、約364ha）を選定するとともに、活動森林等の情報提供、地元市町村等との調整、技術提供等の支援体制を整備しています。

受入体制の整備や活動プラン等の提案などを行った結果、令和2年度末時点で27企業・団体が市町村等と森づくり協定を締結し、植樹・間伐等の活動により森林保全に貢献されています。

令和2年度には、新たにYKK AP(株)と鏡野町との間で森林保全に係る利用協定が締結されました。



三 岡山県二酸化炭素森林吸収評価
認証制度

県では、事業を進めるため、参加企業が整備された森林による二酸化炭素吸収量を評価・認証し、環境への貢献度を数値化しています。



活動の様子(間伐)



活動の様子(植栽)

認証書は、広く広報活動にご利用していただくことができます。

四 広報活動

ホームページ等により積極的な広報活動を行っています。特に、事業内容や活動状況を周知するため、JR岡山駅デジタルサイネージを活用して、広く事業を紹介しています。



デジタルサイネージ
放映画像

五 おわりに

SDGs（持続可能な開発目標）がメディアでもよく取り上げられるようになり、森林保全活動に関心を示す企業も今後、ますます増加するのではないかと考えられます。これを機にさらに多くの企業の皆様に参画していただけるよう、引き続き積極的な広報活動を行ってまいりたいと考えております。

（林政課 森林経営班）



**林業経営体向け
基礎知識研修を
受講しませんか**

一 はじめに

県では令和元年度から林業経営体向け研修を実施しています。

市町村が実施している森林経営管理制度が円滑に推進されるためには、森林管理の受け皿である林業経営体が、長期間安定した経営を行う必要があります。このため、今後を担う若手の職員などを対象として、令和2年度から基礎知識研修を実施しています。

なお、3年度は、研修の企画・運営を（公財）岡山県林業振興基金に委託し、実施しています。

二 基礎知識研修の概要

(1) 研修目的

基礎知識研修では、林業経営体、木材製造業等の職員を対象に、森林・林業・木材産業の全般知識を学んでいただきます。

内容は、川上（供給側の森林所有者・素材生産業者等）、川中（需要側の木材市場・木材加工業者等）、川下（実需者の工務店・住宅メーカー等）の各分野にわたる全般知識としています。

(2) 令和2年度研修

2年度は、年4日間（11月～3月）、各分野（川上、川中、川下）の基礎知識について、座学、グループ討議、現地見学を行いました。

川上の現地では「伐採と造林の一貫作業システム」に欠かせない造林用コンテナ苗の育苗施設（豊並樹苗生産組合・奈義町）を見学し、生産者から育苗方法の説明を受けました。受講者からの質問も多く、「コンテナの種類やコンテナ苗のメリットが理解できた」などの感想をいただきました。



育苗施設（コンテナ苗）の見学（奈義町）

川中の現地では、製材施設（山下木材（株）・真庭市）にて、原木入荷↓製材↓乾燥↓プレカット加工までの一連の工程を見学し、受講者から「丸太の流れが理解できた」などの感想をいただきました。



製材施設の見学（真庭市）

川下の現地では、みやま公園（玉野市）にて、水源かん養保安林、治山施設、松くい虫被害対策などについて解説を交えながら公園内を散策し、森林の多面的機能について理解を深めていただく場を設けました。



森林の多面的機能をめぐる（玉野市）

このほか、森林整備施業地（西

粟倉村）、製品市場（真庭市）、在来工法住宅（新庄村）、CLT住宅（倉敷市）、CLT非住宅（真庭市）、銘木・木造住宅（倉敷市）などを見学し、受講者から「川上、川下を一通り勉強できて良かった」などの感想をいただきました。現地見学は視察先の多くの方々の御協力により大変有意義なものができました。この場をお借りし感謝申し上げます。

(3) 令和3年度研修

本年度（令和3年度）の研修計画の概要は次のとおりです。（参加要件）

- ・定員 20名程度（全4回）
- ・対象 林業経営体・木材製造業等の職員ほか

現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、予定していた研修を延期しています。今後、再開でき次第、日程、内容等お知らせする予定です。本研修に関する問い合わせは岡山県林業振興基金・研修窓口（電話0868・20・1931）までお願いいたします。

三 おわりに

県では、今回の研修など県主催研修の企画や、国主催研修の紹介などを通して、林業経営体の経営改善の一助となるよう、努めてまいります。

（林政課 普及指導班）

研究
だより

CLTの新たな分野での 利用方法の検討



一 はじめに

CLT（直交集成板）は、ひき板（ラミナ）を繊維方向を直交させて積層接着した木質系の材料で、建築分野では様々な利用がなされていきます。しかしながら、建築分野以外での利用はほとんど実績がなく、幅広い分野へ利用することが県産材の需要拡大に繋がるものと考えています。

そこで、土木分野において、鉄やコンクリートよりも軽量であり、かつ強度もある利点を生かした軟弱地盤対策への活用方法について研究しましたので、その内容を紹介します。

二 研究内容

① 低コストCLTの製造

従来のCLTを土木利用するためには、CLTの価格が問題となります。土木利用するのであれば、JAS製品である必要がなく、また、軽量で強度があり、低コストなものが必要になるため、単価の安いヒノキの小径木からCLTの製造を試みました。小径木から3枚のラミナを製材した場合、ある程度の幅・厚みのものを製材すると、随を含む中心部は丸身のないものがとれますが、両端部は丸身

が部分的に出現するものが出てきます。そこで、随を含むラミナを内層に、両端部のラミナは丸身を外向きに外層へ使用した3層3プライ（厚さ90mm）の低コストCLTを製造しました。



低コストCLT

② 曲げ強度試験

曲げ強度試験は、実大強度試験機を使用し、低コストCLTの長さの異なるもの3体ずつの計6体実施しました。3体は通常の強度試験とし、試験体の寸法（以下「寸法」）は幅300mm、厚さ90

mm、長さ2,070mm、もう1種類の寸法は幅300mm、厚さ90mm、長さ2,940mmとしました。前者の荷重点間距離（材料を押す支点間距離）は630mmで通常の強度試験を実施する間隔としました。また、後者は荷重点間距離を1,800mmとし、重機のキャタピラー幅を想定し強度試験を実施しました。強度は、荷重点間距離内にある欠点によって低下する可能性が大きく、荷重点間距離が長くなるほど強度低下が起こりやすくなりますが、今回の曲げ試験では、後者が前者に比べそれほど強度が低下していないことや約8割程度の耐荷重があることがわかりました。これは、小径木の両側のラミナを外層へ使用していることも関係していると考えられます。

③ 走行摩耗試験

低コストCLT（寸法・幅1,000mm、厚さ90mm、長さ2,940mm）3枚と通常のスギCLT（寸法・幅300mm、厚さ90mm、長さ3,000mm）3枚を並べて設置し、その上をゴムキャタピラー、鉄キャタピラーを取り付けたグラップル付きバックホウでそれぞれ直進で100往復し、走行摩耗試験を実施しました。その結果、ゴムキャタピラー、鉄キャタピラー共に表面に若干の摩耗が発生したものの使用に全く問題ないことが明らかとなりました。

④ その他

現在、治山ダムの木製残存型枠はスギの正角（生材）を使用していますが、その代替品として、ラミナを2層積層した新しい面材料が使用できないか検討しています。



走行摩耗試験の実施状況

三 最後に

CLTは、今までにない新しい木質の面材料であるため、土木分野等では様々な利用の可能性があると考えています。

もし、こんなことに使用できるのではというご意見等あれば、是非森林研究所木材加工研究室まで一報いただきたいと思えます。

（森林研究所木材加工研究室）

令和2年度 森林・林業白書が 公表されました

一 はじめに

本年6月1日、令和2年度森林・林業白書（以下、白書）が公表されました。白書は、森林・林業基本法に基づき、政府が毎年、国会に提出するもので、森林・林業の動向と政府の施策について記述されています。白書は図表や写真をふんだんに盛り込み、理解しやすいものになっています。

二 令和2年度トピックスと特集

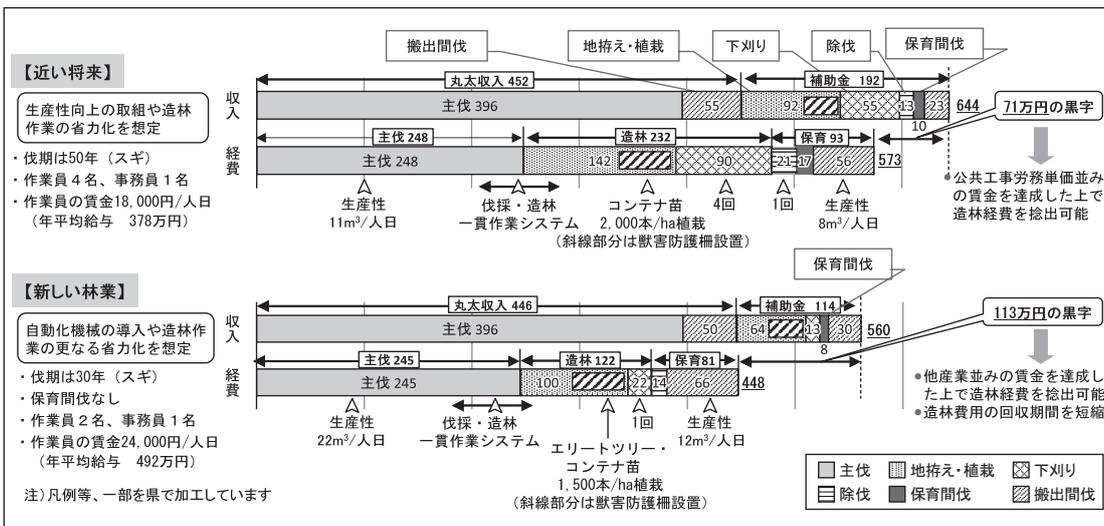
令和2年度は「トピックス」が6つ、「特集」が2つ紹介されています。うち特集1「森林を活かす持続的な森林経営」では、森林の持続的利用を通じた公益的機能発揮のために、森林整備を担っていく林業経営体が果たす役割が高まっており、林業経営体が創意工夫しながら経営展開することを期待した内容となっています。

三 林業の収支構造試算

特集1のうち「5 今後の林業

経営の可能性」では、これからの林業の収支構造の試算結果が示されています。ここでは、素材生産の生産性向

上や造林コストの低減等の取組みを行った場合に、現状の林業経営の収支構造を実際に大きく転換できるのかという観点で試算されています。以下、概要（試算結果）を紹介します。



（試算結果）

施業地1畝当たりの収支

について、「近い将来」（現時点で実装可能な技術を前提とした取組みによる場合）においては、『生産性向上の取組みや2千本/畝の植栽等により、作業員賃金を10%以上向上した上で、植栽から主伐までの全サイクルを通じて、71万円の黒字化が可能となる。』と試算されています。

また、「新しい林業」（さらに自動化機械など研究開発中の新技術を含めて実装された場合）においては、『作業員賃金を東京国税局管内の他産業従事者の平均年収見合いに引き上げた上で、黒字幅が113万円に拡大される。』とされています。

この試算には、『市場開拓

や川中・川下との連携等で木材の販売単価を上げていく取組みは考慮されていない。流通コストの合理化分も基本的に反映されておらず、更なる収益改善の可能性も開けている。』とされています。

この試算は、あくまで一定条件においてなされたものです。補助金も収入に含まれています。

三 おわりに

多くの林業経営体では不断の経営改善に努められているところですが、これらの試算も参考に、今後も経営改善に努めていただきたいと考えています。

本書は林務行政担当者や林業に携わっている方をはじめ、森林・林業に関心のあるすべての方にお勧めしたい一冊です。

●林野庁ホームページ

(<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/>)

でPDF書籍が無料ダウンロードできます。紙媒体書籍がよい方は、書籍「令和3年版森林・林業白書」（全国林業改良普及協会発行）が岡山県林業改良普及協会でも購入できます。

（林政課 普及指導班）

林研グループの紹介

岡山林業未来会の活動について

【岡山林業未来会】

一 はじめに

令和3年8月24日に、岡山県林業研究グループ連絡協議会が開催を予定していた「岡山県林業研究グループ交換研修大会」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、前年度に引き続きやむなく中止となりました。

当日は、県北を中心に活動されている「岡山林業未来会」が活動報告を予定していましたので、今回は発表に代えて、報告内容の一部を誌面で御紹介します。

二 発表内容

(1) 岡山林業未来会について

岡山林業未来会は、林業指導者の育成を目標に結成した林業グループです。県内の林業事業体所属者で構成しており、結成当初5名だった会員も、現在は男性8名・女性1名の合計9名となり、平均年齢は43才になっています。

定例会を2ヶ月毎に開催しており、会員各自の近況報告や、技術向上のための意見交換を行っています。これまでの主な活動内容は次のとおりです。



岡山林業未来会のみなさん

(2) 一日林業体験の実施

林業就業相談会などで、一日林業体験を実施しています。会場を訪れた就業希望者に、伐倒作業や玉切り作業などを体験してもらいました。会員の話を熱心に聞いてくれる高校生の姿もありました。

(3) 木育活動の実施

子供たちにも木の良さを知ってもらうため、木育活動も行っています。真庭市久世保育園では、木の一生を描いた絵本の読み聞かせに始まり、自分たちの身近な場所のあちこちで木材が使われていることや、山の木が木材製品になるまでの流れなどを、分かりやすいように工夫して説明しました。その甲斐もあり、子どもたちも目を輝かせ、真剣に話を聞いてくれました。



真庭市久世保育園の木育活動の様子

(4) 高校生への林業体験の実施

真庭高校久世校地の生徒に向けて、林業の魅力を実感してもらうための林業体験を開催しました。丸太切り体験では、チェーンソーの安全な操作方法の習得を目標に、チェーンブレイキや安全装備の重要性など実践的な説明を行いました。初めは乗り気でなかった生徒も、体験するにつれ次第に引き込まれていき、「楽しいイメージに変

した。この日は、県産材を利用した木工クラフト教室も開催し、子どもたちの自由な感性によって、最適な作品がたくさん生まれました。これからも、子どもたちが本物の木の匂いや感触を実体験できる活動を続けていきたいと思えます。



真庭高校久世校地の林業体験の様子

三 おわりに

誌面の都合上、全ての内容を御紹介することが叶いませんでしたが、この他にも、他県グループとの交流など、精力的で魅力あふれる活動状況が伝わってくる内容となっていました。

岡山林業未来会では、今後も、「未来的林業担い手の育成」、「林業指導者の育成」、「林業の普及啓発」、「未来会会員の技術向上」を目標に、活動を続けていく予定とさせていただきます。

(岡山林業改良普及協会事務局)

変わった」、「林業をしてみたくなった」といった感想が寄せられました。この体験会をきっかけに、林業が就職の選択肢の一つになれば嬉しいのです。

技能講習会の開催（10月～12月）

※詳細は申込先にお問い合わせください。

名 称	会場	日 程		申込・問合せ先
伐木（特別教育）	津山	10月12,13日 11月24,25日	(実技) 10月14日 11月26日	林業・木材製造業労働災害防止協会 岡山県支部 TEL(086)236-7077
刈払（安全衛生教育）	津山	11月2日		
小型移動式クレーン運転	岡山	11月18,19日		一般社団法人 岡山県労働基準協会 TEL(086)225-3571
玉掛け	岡山	11月6,7日、11月11,12日 12月2,3日		
	玉野	10月18,19日		
	新見	10月21,22日		
	津山	10月4,5日		
フォークリフト運転	岡山	10月6日、10月23日 11月10日 12月1日、12月18日		



「緑の募金」 ご協力をお願いします

緑の募金で進めようSDGs（持続可能な開発目標）

募金期間

春のみどりの月間

4月1日～5月31日

秋のみどりの月間

10月1日～10月31日

口座振込は
こちらへ

ゆうちょ銀行	01270-0-5225
中国銀行岡山駅前支店	1852041
トマト銀行岡山駅前支店	1027972

寄付金に対する税の優遇措置が適用されます。

公益社団法人 岡山県緑化推進協会

岡山市北区錦町1-8 TEL・FAX (086)221-9511



緑豊かな自然を守る

治山・林道事業の普及啓発、技術援助
治山・林道の調査、測量、設計、積算
森林整備・森林公園の総合計画

一般社団法人 岡山県森林協会

岡山市中区高屋 225-1 TEL 086-271-3711
津山市二宮 1849-2 TEL 0868-28-9360

林 産 物 市 況



●木 材 (9月9日)

単位：千円/m³

樹種	長さ	径 級	直材	小曲り	樹種	長さ	径 級	直材	小曲り		
杉	3 m	1 4～1 6	14	—	桧	3 m	1 4～1 6	47.5	33		
		1 8～2 0	14	—			1 8～2 0	42	33		
		2 2～2 8	14	—			2 2上	31	29.5		
	4 m	1 8～2 2	12	10		4 m	1 4～1 8	40	36		
		2 4～2 8	12	10.5			2 0～2 2	35	33		
	6 m	1 6～1 8	—	13			2 4～2 8	33	32		
					6 m	1 6	25	—			
						1 8～2 0	45	—			
・出荷材積			約2,100m ²								
(共販所より概況)											
杉概況					桧概況						
・並材3m、4mは横這いで推移					・3m材は横這いで推移し、好調を維持						
・元木材も全体的には横這い					・4m材は14～20cmの買い気が低調						
【3m】					【3m】						
柱 材		やや弱い		中目材		横這い		柱 材		横這い	
中目材		横這い		元 木		横這い		中目材		横這い	
								元 木		横這い	

資料：岡山県森連勝山木材共販所市況速報、価格は中値

●製 材 (8月)

樹 種	寸 法	等級	区分	安 値 ～ 高 値 (円/m ³)	備 考
ス ギ	正角 3 m 10.5cm角	特等	K	90,000 ～ 110,000	
	正角 3 m 12cm角	特等	K	90,000 ～ 100,000	
ヒ ノ キ	正角 3 m 10.5cm角	特等	K	150,000 ～	
	正角 3 m 12cm角	特等	K	140,000 ～	
	正角 4 m 10.5cm角	特等	K	150,000 ～	
	正角 4 m 12cm角	特等	K	140,000 ～	
マ ッ	平角 4 m 10.5～12cm ×15～18cm	一 等	K	75,000 ～	
米 マ ッ	正角 3 m、4 m 10.5cm角	特等	G	85,000 ～	
	平角 3 m、4 m 10.5 ×15～21cm	特等	G	81,000 ～	
北洋アカマツ	タルキ 4 m 3.8cm角	特等	K	130,000 ～	
ホワイトウッド	間柱 3 m 2.7cm×10.5cm	特等	K	110,000 ～	

注1：価格は、岡山県内の市場の相場を参考とした。

注2：区分のKとは人工乾燥材、Gとは未乾燥材のこと。



緑あふれる環境づくり

株式会社 山都屋

本社 〒703-8273 岡山市中区門田文化町2丁目11番51号
 TEL (086) 272-2161 FAX (086) 272-2142
<http://www.yamatoya-net.com>
 大阪営業所 津山営業所 水島営業所

優良種菌で確かな収穫

もりのたねごま

◆シイタケ、ナメコ、ヒラタケ等の品種の選定及び栽培管理についてなんでも御相談下さい。

製造 総発売元 **森産業株式会社**

岡山営業所 岡山市北区辰巳46-104
 TEL 岡山(086)805-7033(代)

日本植生は環境緑化技術を創造し、地球環境の保全に貢献します。

間伐材利用植生基材マット	間伐材利用植生マット	間伐材利用生分解型植生マット	間伐材利用生分解型植生シート	間伐材利用植生シート
グリーンフォーマット 〔切土軟岩用〕	森樹郎マット 〔切土土砂用〕	森樹郎マット21 〔切土土砂用〕	張りウッド 〔盛土用〕	ハリシバモック 〔盛土用〕

「岡山県エコ製品」の認定を受けた5品目
 間伐材を有効利用した環境緑化資材です。

太陽と緑の国づくり
Nihon 日本植生株式会社
<http://www.nihon-shokusei.co.jp/>
 津山支店 / 津山市高尾580-1 TEL (0868) 28-0256
 岡山事務所 / 岡山市北区芳賀5325 TEL (086) 294-1000

NETIS登録：CB-010046-A 間伐材利用植生マット工法「森樹郎(シンキロウ)マット工法」

「もしも」に備えて・・・森林保険があります！

FOREST INSURANCE

森林保険

加入できる森林は？ 人の手が加わった森林
 加入期間は？ 1年単位で何年でも！
 保険金がでるのは？
 火災、風害、水害、雪害、干害等気象災の損害があったとき、森林所有者に支払われます。
 岡山県では過去5年間で約4千5百万円の保険金が支払われました。

ご契約のモデルケース (1ha あたり)

樹種…ヒノキ 契約時林齢…1年 保険期間…5年 保険金額…最大188万円 一括払いだと27,444円(5年間計)	樹種…ヒノキ 契約時林齢…26年 保険期間…5年 保険金額…最大299万円 一括払いだと43,325円(5年間計)
--	---

1ヶ月あたり約460円 → **わずかおむすび 4個分**

1ヶ月あたり約720円 → **わずかラーメン 1杯分**

○保険金額を50%にすることにより、保険料を50%にすることも出来ます。
 ○条件によって契約金額が変わってきます。

○お申し込み、お問い合わせはお近くの森林組合まで。

ほっけー木になる情報

Q.「県営林」とは何ですか？

A. 県営林とは、県自らが土地を所有する「県有林」と、県が土地所有者に代わって造林を行う「県行造林」との総称です。

「県有林」は御大典記念、明治100年記念、県政100年記念など県が土地・立木ともに所有し、管理している森林です。県の北部に位置する中国山地の南背稜の3団地に分散して所在し、面積は2,399haとなっています。

「県行造林」は紀元2600年記念、巡幸記念、講和記念など県が土地所有者と分収契約を結び、民有林（市町村有林も含む）に対して造林を行い、その収益を土地所有者と分収することを目的として管理しています。県下15市町村に分散していますが、大部分の造林地は県北部の中国山地の中腹部に位置し、面積は2,774haとなっています。

県営林の経営は、良質材の生産を目的とした模範的優良林を造成し、水資源の涵養、県土の保全、森林レクリエーション活動への森林空間の提供など、森林の持つ多

面的機能を発揮させるための管理運営を行っています。

○県有林

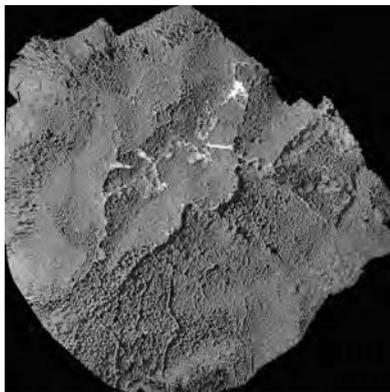
県有林は、経営林と保存保全林とに区分して管理しています。

経営林は、間伐・択伐を繰り返しながら針葉樹と広葉樹が混交した森林へ誘導します。

保存保全林は、伐採は行わずに維持保全を図っていきます。

○県行造林

短伐期実施を行うところは計画的に主伐を行い、長伐期実施を行うところは収入間伐を実施していきます。



ドローンによる県行造林オルソ画像

詳しくはホームページ



「岡山県営林」で検索

【 特別共販日のご案内 】 岡山県森林組合連合会  TEL. 086-236-6530

開催日	特別共販名（開催共販所）
10月7日(木)	真庭森林組合秋期特別市（勝山）
10月23日(土)	第45回新見地区木材まつり（新見）
11月9日(火)	第33回岡山県民有林優良材展示コンクール(津山)



第32回民有林コンクールの様子

当会ではご出荷いただいた大切な丸太を丁寧に仕分け、一生懸命競り売りしておりますので、皆様のご出荷をお待ちしております！
今後の木材共販日程についても当会のホームページより是非ご確認ください

〈当会ホームページ URL〉 
<http://www.okmoriren.or.jp>

木を通して環境保全に貢献しています

公園修景施設・土木用資材
防腐処理・ログハウス・デッキ

 **さんもく工業株式会社**

〒702-8045 岡山市南区海岸通2丁目6番3号
TEL 086-262-0137(代) FAX 086-262-0130

おかやまの木で家づくり支援事業

- ✓助成金額：最大24万円/戸
- ✓助成対象者：県内において住宅を新築または改修される施工業者（大工、工務店等）

 詳細はコチラ 

<http://www.kaiteki-kinoie.or.jp/subsidy.html>

一般社団法人 **岡山県木材組合連合会**

〒700-0902 岡山市北区錦町1-8(岡山県木材会館内)
TEL(086)231-6677 FAX(086)232-7549

林声

令和三年九月一日（第四七九号）
（隔月一日発行）



風の葉



サイクリングセンター

当該施設は令和3年7月、真庭市の蒜山高原にオープンしました。CLTパビリオン「風の葉」、蒜山ミュージアム、「ビジターセンター・ショップ」、サイクリングセンター」で構成されています。GREENableとは自然や緑を意味するGREENと持続可能を意味するSustainableを掛け合わせた造語で、その想いを体感することが出来る施設となっています。「風の葉」は真庭市産CLTを使用し、令和元年11月東京・晴海

森林・林業施設の紹介

「GREENable
HIREZEN」

に隈研吾氏設計監修により「CLT PARK HARUMI」として建設されました。その後、CLTの魅力と木材の文化・情報発信の役目を終え、蒜山高原に移築されたものです。建物は鉄骨とCLTからなる混構造で、CLTを約235立方メートル使用しています。また、CLTを活用した「サイクリングセンター」は、木づかい提案・実証事業（おかやま森づくり県民税事業）を活用して整備され、蒜山のサイクリングの中核的な施設となっています。当該施設は観光・芸術文化の発信と共に持続可能な循環型社会を発信する拠点として期待されています。（真庭普及指導区 小寺 翔太）

編集
発行

〒701-1202 岡山県森林組合連合会内
岡山市北区櫛津四九一―一
岡山県林業改良普及協会



CT-500C
・GP-532
小型ハイパワープロセッサ
IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.



shindaiwa

高性能大型林業機械から電動工具まで何でも揃う

美津吉商事株式会社

津山市一方 194 〒708-0883 TEL(0868)23-2255
<http://www.mitsuyoshi.com/>

— 安全・人と自然・調和 —

美林を育てる

〔林地除草剤〕ザイトロンフレノック微粒剤・ザイトロン微粒剤・フレノック粒剤・ケイピンエース

造林木を野生動物の食害から守る

〔野生獣類忌避剤〕ランテクター水和剤・コニファー水和剤

〔幼齢樹保護カバー〕くわんたいⅡ

〔樹皮食い防止〕バークガード・美樹巻夫

〔樹幹注入剤〕マッケンジー・マツガード・他

〔野生草食獣侵入防止〕防獣ネット・他

お問い合わせ申込みは県森連・森林組合へ

販売：日植アグリ株式会社

販売元：大同商事(株)大阪営業所

TEL.086-292-5525

TEL.06-6384-1288



この用紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

認定番号
K0809236